



今月の

Syu [GALNERYUS/SPINALCODE]
 ネオクラシカル/メロディック・スピードメタル・バンド、GALNERYUSのギタリスト。新たにボーカリストに小野正利を向かえ、6月23日に6thアルバム「RESURRECTION」をリリースした。

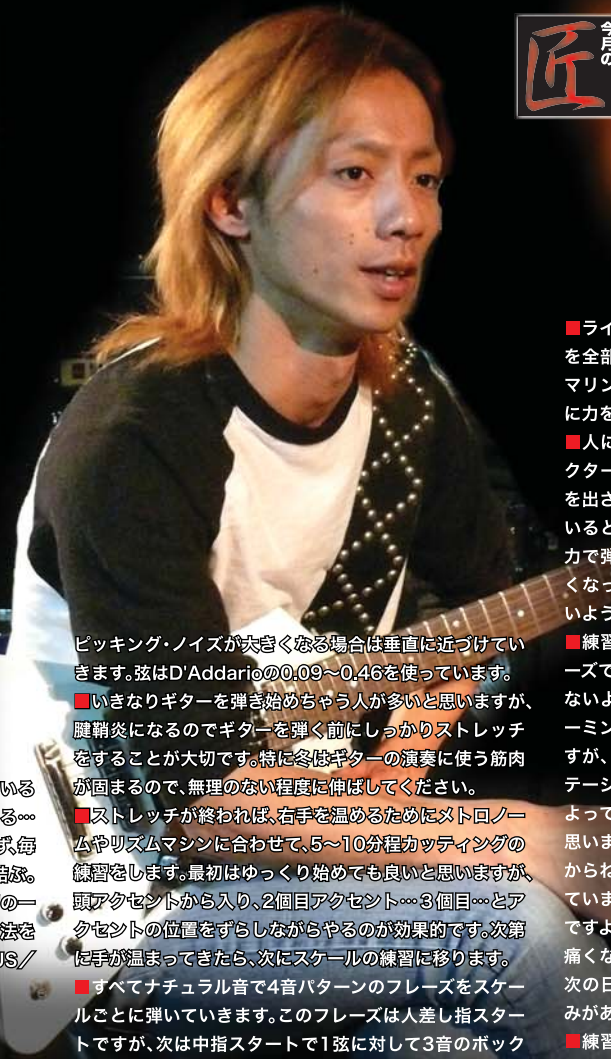
匠のアドバイス

- ・ストレッチ、手を温めるところから
- ・ライブ派なら練習は立ってやるよ

プロギタリストの
 原点はここにある

二に練習、二に練習、
 西がなくて、五に練習
 プロギタリストの

ROME WAS NOT BUILT IN A DAY



ピッキング・ノイズが大きくなる場合は垂直に近づけていきます。弦はD'Addarioの0.09~0.46を使っています。

■いきなりギターを弾き始めちゃう人が多いと思いますが、腱鞘炎になるのでギターを弾く前にしっかりストレッチをすることが大切です。特に冬はギターの演奏に使う筋肉が固まるので、無理のない程度に伸ばしてください。

■ストレッチが終われば、右手を温めるためにメトロノームやリズムマシンに合わせて、5~10分程カッティングの練習をします。最初はゆっくり始めても良いと思いますが、頭アクセントから入り、2個目アクセント...3個目...とアクセントの位置をずらしながらやるのが効果的です。次第に手が温まってきたら、次にスケールの練習に移ります。

■すべてナチュラル音で4音パターンのフレーズをスケールごと弾いていきます。このフレーズは人差し指スタートですが、次は中指スタートで1弦に対して3音のボックス型で同様に続けていきます。次はハンマリング/プリングです。これもすべてのフレットに対してナチュラル音。その後、スウィープの練習に入ります。イングウェイ・パターンというかノ上昇/下降フレーズを各弦ともに弾いていきます。6弦に到達するときにはもう右手の感覚がなくなってくるハズです。大体全体を通して30~40分程度ですね。

■ライブやクリニック前のウォーミング・アップはこれらを全部消化できないので、カッティングの練習。次にハンマリング/プリングのフレーズと、左右の手を温めて最後に力を抜いてステージに行くという感じでやっています。

■人によるとと思いますが、僕はアンプなりマルチ・エフェクターを使って練習しています。エレキギターの場合、音を出さないとノイズの出方がわからないし、生音で弾いていると自然にピッキング圧が強くなる。つまり、どの位の力で弾いたときにどのくらいの音が出るのかわからなくなってきます。それがわかったので、生音で練習はしないようにしています。

■練習は基本的に立ってやります。しかも、ノれないフレーズでも無駄に身体全体を揺らして、できるだけ力が入らないように。全然関係ないですが、フレーズの終わりでアーミング入れたりして遊びます(笑)。難しい曲が多いのですが、ライブにおける正確さに重点を置いているので、ステージでいっぱいになりたくないんですよ。人によっては座って練習した方が集中できるって人もいると思いますが、立って弾くのは使う筋肉も微妙に違いますからね。僕の場合は座ってやっても無駄にくらいに考えています。立って弾いた方がライブで100%出しやすいんですよ。手が痛くなったら「練習したっ！」って気になるし、痛くなったら自分でも筋肉が付いていくのがわかるので、次の日とんだけ上手くなってらんだらうって考える楽しみがある。だから頑張るんです。

■練習するときはしっかりとした目標を持って望むと良いと思います。僕の場合はライブを一番に考えて練習しているのですが、ライブ派なら立って弾くのが良いし、レコーディングがメインなら座って弾くとか。絶対にやってはいけないのが、肩に力を入れてしまうこと。肩に力が入っていると何もできなくなってしまうので、リラックスして練習に望んでください！

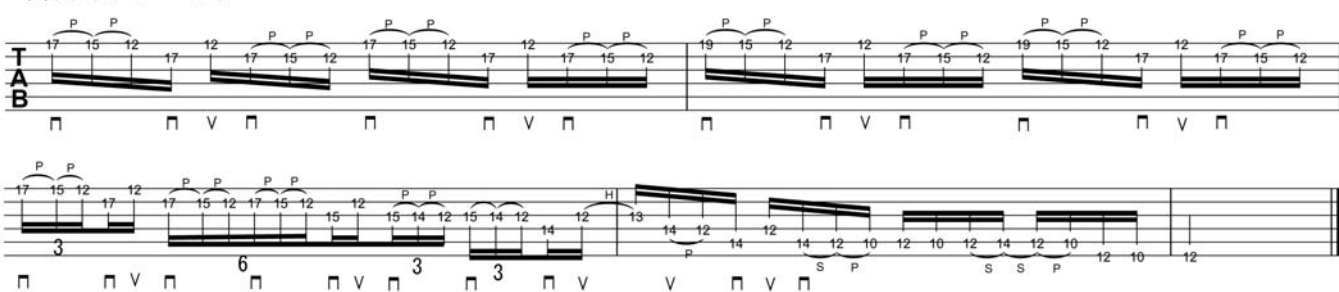
もっとギターが上手になりたい！誰もがそう願っていることだろう。朝起きたら突然ギターが上手くなっている...残念ながらこんなことは絶対ない。楽器演奏に限らず、毎日の小さな積み重ねがいずれ大きな成果として実を結ぶ。ローマは一日にして成らず。千里の道も一歩から。最初の一步として、プロのギタリストに日頃のトレーニング方法を聞いて、参考にしてみよう。第1回の匠はGALNERYUS/SPINALCODEで活躍中のSYUさんにご登場願った。

■ピックはオニギリ型のミディアム(0.8mm)ですね。なんでオニギリ型かっていうと3つの角があるので、都合3回使えるから(笑)。僕はピッキング圧が強くてライブとかだとさらに強くなる傾向になるから、1mm以上になっちゃうと弦がピックに負けてピッキングの時に音程がずれちゃうたりするんです。当て方はメタラーなんて結構斜めです。

♩=124~
 半音下げチューニング ▼左手のプリング・オフのストレッチ。このフレーズをベースに、次第にテンポを早くしつつリズムをトリッキーにしていくと効果的



♩=124~
 半音下げチューニング ▼薬指、中指、人差し指のストレッチ。左手はプリングしつつ、右手はエコミー・ピッキング。力まずリラックスして望もう。順にスケールを上げていっても良い



PRESENTED BY

e frontier

イーフロンティア
<http://music.e-frontier.co.jp/product/gp/>

GuitarPro6

ギター/ベース/ウクレレ/バンジョーなどフレット楽器独特のタブ譜や演奏表現などを含んだ楽譜の作成、専用音源によるリアルな再生、トレーニング機能、などなど画期的な機能を多数搭載。



サイトには今回の連指フレーズを演奏している映像とGuitarPro6のデータがあります。プロ・ギタリストの連指の映像を観るもよし。パソコンの画面上でTAB譜を見ながら、テンポを変えて、音を聴きながら練習することもできます。[Windows/Mac版 体験版]

<http://music.e-frontier.co.jp/gp6/>



映像配信中心!